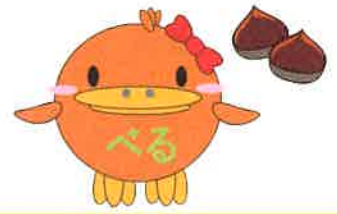


りーべると通信



はっこうせきにんしゃ ほうじん やめちくしょうがいしゃきんどうだんしえん
発行責任者：NPO法人 八女地区障害者相談支援センターりーべると
じゅうしょ やめしもとまち でんわ
住所：八女市本町17-2 電話：0943-22-2610 FAX：0943-22-2664
E-mail：liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL：http://liber-yame.net

しょうがいしゃぎやくたいつうほう
障害者虐待通報ホットライン
☎090-2580-0294
いつでもお電話ください！

へいせい ねんどだい かい けんしゅうかい かいさい 平成30年度第1回りーべるとネットワーク研修会を開催！！



へいせい ねん がつ にち すい やめしぶんかいかい
平成30年8月1日（水）に八女市文化会館にてりーべると
ネットワーク研修会を開催しました。北九州市立大学文学部
人間関係学科の 楠 凡之 教授をお招きし、障害福祉サービ
ス事業所や相談支援機関、学校の先生方等八女地区で教育、
障害福祉にかかわる多くの方々とともに「家族への理解と関
わり～よりよい関係を結ぶために～」というテーマで学習し
ました。

くすのきせんせい じっさい きょういくげんば れい ほごしゃ
楠 先生より実際の教育現場での例をもとに、保護者やご
家族が抱える悩みにどう向き合うことができるのか、関わり
方や援助方法等分かりやすく解説していただきました。我々
教育、福祉機関は日々の生活の苦しさや生きづらさを聴きと
り、その思いに回答できているのか？参加者それぞれが自問
自答しながら先生の 話に耳を傾けました。回答していく中
で保護者、ご家族の「応答能力」の回復を支援するという視点
は目からうろこで、「未処理の葛藤」に着目することはどの
支援機関においても必要であると感じました。その中で我々
が「心のコンテナ」の役割を果たすことが「よりよい関係を
結ぶ」基盤になるのだと思います。

～アンケートより～

- 日頃の業務を振り返る大変良い機会となりました。日々の業務でつい感情的になることも多く、共感的理解や未処理の葛藤への対応等改めて大切さを感じました。
- 実際にあった出来事を分かりやすく説明して頂いたり、これからまた子供達やそのご家族と関わっていこうというパワーをもらえたり、プラスになる研修会でした。
- こちら側からの見方と相手からの見方がある中で、色々な見方をして対応していきたいです。子どもの'view'を理解し、自らの人生に希望が持てるように支援していこうと思います。



けんりようごべんきょうかい 権利擁護勉強会

7月11日に開催した勉強会を皮切りに、今年度から八女地区では権利擁護勉強会を定期開催しており、7月、9月と相談支援専門員を対象とした勉強会を行ないました。

私たち相談支援専門員は、計画相談等で当事者、家族、福祉事業所と関わる機会が多く、障害者や児童虐待の疑いを感じたことや相談を受けたことが少なからずあります。相談支援専門員が「何か変だな」と気づき、虐待の早期発見に繋げるためには、障害者の権利擁護や障害者虐待防止法の内容を知識として身につけ、日頃から、権利擁護の視点を持って関わる必要があります。

初回となる7月の勉強会では、そもそも障害者の権利擁護とは何かという基盤をしっかりと学んだうえで、9月に障害者虐待防止法について学びました。講師には福岡県社会福祉士会副会長、高齢者・障害者虐待対応チーム委員長の稲吉江美様をお迎えし、専門職として知っておくべき基礎知識と対応～虐待をしない、させない、見逃さない、早期発見、早期対応を目指して～をテーマに学びました。

平成24年に障害者虐待防止法(略称)が施行されて6年が経過した今、どれだけの知識と意識を持って、相談支援専門員としての仕事に取り組むことができていたのか…。

参加者からのアンケートを抜粋して掲載します。



- ・自分の認識、意識の甘さ、ずれに気づくことができた。
- ・虐待という言葉は重く躊躇してしまうが、早期発見、早期介入がとても大切だということがわかった。
- ・施設でも起きる可能性は十分にあるということを改めて認識することができた。
- ・虐待の疑いを感じたら、そのままにしておかないこと。対応が難しい家庭であっても関係機関と連携を取りながら支援の見立てを立てることが大切、等々。

今後も勉強会を重ねながら、八女地区に権利擁護の意識が根付いていこうにしたいと思います。尚、10月下旬には、障害福祉事業所向けの権利擁護勉強会(虐待防止)が開催されました。

~八女地区障害者等自立支援協議会~

今年度第1回目の八女地区障害者等自立支援協議会を7月9日に開催しました。今年度の委嘱状の交付が行われた後、リーベルより昨年度下半期の活動概要および相談内容や傾向の報告、さらに各分科会の活動報告を行いました。また、今年度からスタートした八女地区障害者地域生活支援拠点センターすいれんから、開設後2か月の相談内容や支援状況等の報告がありました。

八女市からは、市内にある18のグループホームの定員に対する市内の方の利用率が約37%と低い状況が報告され、委員の方から県に対してグループホーム設置に関する補助金の要望を出すことに賛同を得ることができました。また、災害時における福祉避難所の設置に向けた環境整備、農福連携の取り組みについても協議が行われています。



「母の思い～今までを振り返って～」

9月13日にリーベルおしゃべり箱を開催し、6名の保護者が参加されました。今回はAさんのお母さまに来ていただき、幼少期からのお話を伺いました。

Aさんはできることが色々あったので、“もっとできる事がふえたらいいな”という思いで療育に専念されていました。幼少期は母子通園での療育に行かれており、「最初は他の子と比べていたけれど、他のお母さんと話すことで、それぞれいろんな悩みがあると知り、自分の気持ちも徐々に落ち着いていきました」と話されていました。毎日療育に忙しいお母さまに対して「何をしているのだろう…」と思うお父さま。一緒に療育に来てもらい、Aさんの現状を理解してもらうことで、徐々にお父さまの育児や療育への協力を得られるようになりました。

その後、地域の保育園、小学校へと進学。心配はあったけれども地域の子と関わりを持つことは大切であり、当時のお友達は今でも会うと声をかけてくれるそうです。小学校では担任の先生と何度も話し合いを重ねられています。中学校は筑後特別支援学校を選択され、最初はこれまでの授業スタイルとの違いに戸惑いを感じながらも、お母さまの気持ちは楽になったと言われていました。思春期を迎え、生理の対応や他の人との距離感、服装で気を付けていることなどについてもお話をいただきました。

Aさんが小学生の時にダウン症のCさんが生まれ、“できないことを受け入れる”ということができるようになったと共に、Aさんに対して今まで療育に専念しすぎていたことに気づき、「きつかったらうな」と振り返ることができたと言われていました。当時は一生懸命、今になって気づくことも沢山ある…と。

参加された方からは姉弟児の関わりについて質問がありました。Aさんの下に生まれたBさんにとってはAさんはいるのが当たり前前の存在。幼少期はBさんと二人きりの時間を作られたそうです。Bさんの心の中ではAさんやCさんのことをどう思っているのかわかりません。聴くこともありませんと言われていましたが、お母さまの表情から3人の子供たちが、繋がっている様子がうかがえました。Aさんは「自分はお姉さん」という認識があります。

現在、Aさんは生活介護と就労継続支援B型、日中一時の利用をされています。本人の好きな活動、作業と余暇をバランスよく取り入れたいというお母さまの思い、姉弟児との関りも考えたスケジュールとなっています。嫌なことがあっても嫌ということとはできず、しないといけない気持ちが強いAさん。本人の気持ちや希望を理解するのは簡単ではありませんが、毎日楽しく過ごしてほしいというのが、お母さまの想いです。

初めての先輩お母さまの講話。まだまだ不安なことが多いお母さま達にとって、少し将来を感じられた時間でした。



～リーベル「おしゃべり箱」の今後の予定～

開催日：12月13日(木)、1月10日(木)、2月14日(木)、3月14日(木)

時間：10:00～12:00 場所：リーベル2階

12月は秋山辰郎氏(筑後特別支援学校教諭)、2月は岸良至氏(作業療法士)の講話を予定しています。

その他の日程は自由な意見交換です。申し込み不要です。お気軽にご参加ください。

トミーさんが残してくれたもの

八女市のトミーさんが、5月8日ご自宅で家族が見守られる中、永眠されました。

ALS(筋委縮性側索硬化症：難病)発症して5年7か月でした。60歳でした。

『どんなに重い障害があっても、進行性の難病であっても、家で、地域で暮らしたい。自宅での生活は無理だから、入院しないと諦めている人が多い、支える地域もそうではないか？自宅で過ごしたい人がいれば、地域で支える。そんな八女市になってもらいたい。当事者も、「自宅で生活したい、支援して欲しい」と声を上げて欲しい。その為に、自分が歯を食いしばって自宅で生活する意味がある。家族の為に、延命治療は望まない、精一杯生きたい。』

介護保険、障害福祉サービスの併用、訪問看護、訪問リハビリ、訪問入浴、居宅介護、訪問診療など多くの関係機関にご協力を頂きました。

トミーさんは、理学療法士として実直に多くの方の生活を支えられました。もっともっと仕事をしたかったに違いありません。しかし、難病を患い、今度は支援される立場になられました。自らが当事者として、身を削りながら切々と思いを説いて頂きました。

日々、体の自由が効かなくなることを受け止めながら、少しでも体を動かしたい、トイレで排泄したいと、関係者が絶句するほど「生きる」ことに、全身全霊。

生きること、障害を受容すること、寄り添い続けること、沢山のことを学ばせて頂きました。相談員としての姿勢を自問自答する毎日でした。「利用者からは、看護も介護も同じ立ち位置。上下はないよ」と言われた一言が心に残っています。

山あり、谷ありの在宅生活。本人の想いにこたえる家族や支援者がいたからこそ、自宅で最期を迎えることが出来ました。多くの関係機関のご尽力は言葉では、語りつくせないほどです。息が絶え絶えの際、主治医が「よく頑張りましたね。この頑張りは、これからの難病の方の力になります。在宅の道を作ってくれてありがとう」と言われ、トミーさんが笑顔で大粒の涙を流されました。携わった関係機関は、とても深い学びになりました。トミーさんが育て残してくれた、貴重な地域資源です。

私たちは、トミーさんの想いをしっかり心に置き、どんな重い障害の人でも地域で暮らせるように、「大丈夫ですよ」と言える地域になるようにしていきます。

トミーさん、天国で見ていてくださいね。ご冥福をお祈りします。

ごあいさつ



8月1日より、勤務していただきます立原彩です。以前は、精神科病院や総合病院で、ソーシャルワーカーとして勤務していました。

地域の中で、少しでも皆さんの役に立つことが出来るように頑張っていきたいと思えます。宜しくお願いします。

☆バリアフリー対応映画上映会のご案内☆

「野球部員、演劇の舞台に立つ」

【日時】H30年12月7日(金) 13:00~15:20

【場所】おりなす八女 ☆入場料無料☆

【参加対象者】八女市在住で障害をお持ちの方及び介助者

☆字幕表示・音声ガイドにて聴覚・視覚障害の方へ対応☆

事前申し込み不要。当日は必ず障害者手帳をご持参下さい。

【お問い合わせ先】八女市役所福祉課しょうがい者福祉係

TEL: 0943-23-1335 FAX: 0943-22-7099 (担当: 阿部)



～編集後記～

朝晩めっきり寒くなりました。先日、リーベルの前を御神霊が乗った神輿、獅子舞、お供人の行列が音を鳴らしながら通られました。その際に獅子舞に噛んで頂いたので、良いことがありそうです。皆様の無病息災を願って。(ツ)